



研究テーマ

日本の長寿者に学ぶ支援機器の利活用

研究者名・所属

主導研究者：二瓶美里講師
東京大学大学院
新領域創成科学研究科

● 研究概要と目的

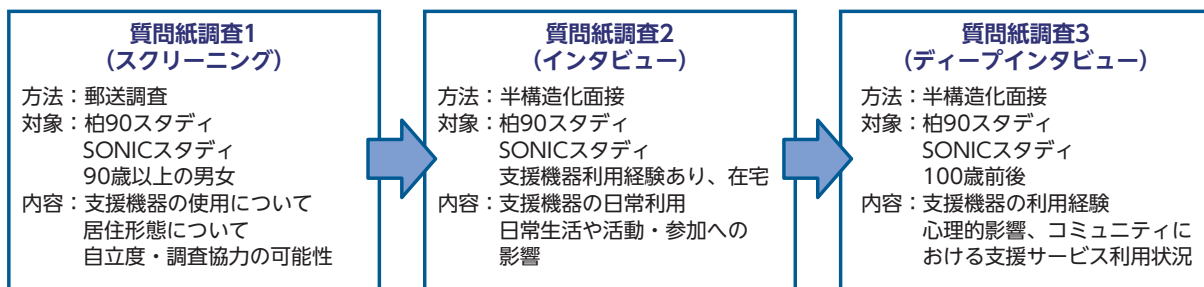
支援機器(Assistive products)は高齢者が自宅や地域社会で快適に暮らし、社会の一員として活力のある生活を維持し、さまざまな障害をクリアするために欠かせない存在となっています。そして、高齢者の支援機器利用やサービスに関する経験値が超高齢社会の日本には豊富に蓄積されています。本プロジェクトでは、日本の90歳以上の長寿者が実際にどのような支援機器を使用し、日常生活に活用しているのか実態を調査します。調査結果は国内のみならず世界の福祉・サービス提供における支援機器利用計画に活用されることが期待されます。

● 背景

医療や福祉、ライフスタイルの改善によって、多くの国で平均寿命が延伸し、世界規模で高齢人口が増加しています。また、日本は他のどの国よりも100歳以上の高齢者人口が多く、約6万7千人と報告されています(厚生労働省)。一方で、加齢にともない、虚弱、認知機能低下、慢性疾患や障害などが増加することから、高齢者が自宅での快適な自立した生活を維持するためには支援機器の利用が必要となります。また、今後さらに世界の人口高齢化は進み、支援機器の国際的な需要は確実に増加すると見込まれています。

● 手法

本プロジェクトの対象は、自宅(あるいはそれに準ずる環境)で暮らし、日常的に支援機器を使用する90歳以上の長寿者(千葉県柏市に在住の方(以下、柏90スタディと呼ぶ)、あるいは現在実施中の高齢者研究(SONICスタディ)の参加者)の中から(1)郵送調査で対象者を絞り込み(スクリーニング)、(2)インタビュー(半構造化面接)で支援機器の日常生活や活動への影響の聞き取り、(3)100歳前後の長寿者を対象としたディープインタビュー(半構造化面接)で心理的影響やコミュニティにおける支援サービスの利用状況の聞き取りと3つの調査を実施します。



● 研究課題

1. 長寿者が支援機器を使用し始める年齢と支援機器の種類を特定する。
2. 複数使用される支援機器の組み合わせについて検討する。
3. 支援機器が日常生活や活動に与える影響を検討する。
4. 支援機器の使用を促進、または阻害する要因を考察する。
5. コミュニティで支援機器の使用を支援するサービスやサービス使用経験を検討する。
6. 自己認識やスティグマ、エンパワメントなど支援機器に関する高齢者の洞察を検討する。

● 研究チーム

リサーチ主導施設：東京大学

東京大学大学院新領域創成科学研究科 二瓶 美里 講師(主導研究員)
東京大学 高齢社会総合研究機構 菅原 育子 特任講師
大阪大学大学院人間科学科 榎藤 恭之 准教授
東京都長寿医療センター研究所 増井 幸恵 研究員
東京都長寿医療センター研究所 稲垣 宏樹 研究員

〈研究協力者〉

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 井上 剛伸 福祉機器開発部長
アイルランド国立大学メイヌース校 マルコム・マクラクラン 教授
ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン アイリッシュ・マコーリフ 教授
WHO神戸センター ローゼンバーグ 恵美 技官

● スケジュール

2018年2月	研究開始	2018年11月～ 2018年12月	長寿者へのディープインタビュー調査
2018年2月～ 2018年5月	郵送調査、予備調査	2019年2月	研究報告書完成
2018年6月～ 2018年10月	構造化インタビュー調査		

● 予算

US\$ 100,000